

海の向こうから

令和3年、今年も新型コロナウイルスの為、今まで経験した事のない一年になりました。しかしワクチン接種が進み、少しずつ先が見えて来て欲しいと思う日々を送っております。広島県OB会も活動をほとんど行えない一年でした。来年は、希望を持って考えましょう。まず派遣隊員のレポートを。

01

ルワンダより

ムラホ！

こんにちは。2019年度3次隊の岡 亨（おか とおる）と申します。ルワンダに木工隊員として派遣されています。本来であれば2020年3月に派遣される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、約1年間の国内待機を経て2021年5月に2名とともにルワンダへ派遣されました。

ルワンダに来て2ヶ月、任地へ赴任して1ヶ月とまだまだルワンダ初心者の私ですが、魅力あふれるルワンダをご紹介します。

ルワンダについて

ルワンダは東アフリカに位置する面積が四国の1.5倍ほどの内陸国で、アフリカではモーリシャスに次いで2番目に人口密度が高い国です。暑いイメージのあるアフリカですが、ルワンダは標高がとても高く、任地のフイエも標高1,750mほどあります。湿度が低く、気温も年間を通して13-25度と非常に過ごしやすい国です。また、「千の丘の国」と称されるほど山や丘が多く、なだらかな稜線が織り成す美しい光景がどこまでも広がっています。

任地について

任地であるフイエは首都キガリから車で3時間、ブルンジの国境近くの街になります。人口は約9万人で首都キガリに次ぐ第二の都市です。コーヒーの栽培が盛んで、地球の歩き方にも載っている有名な農園「フイエ・マウンテンコーヒー」があったり、空港やスタジアム、中華料理屋なんかもありとても活気のある街です。

キガリからの風景



フイエの風景



活動について

私はルワンダの南部県フイエにあるルワブイエ職業訓練校に配属されています。木工科にて生徒および教員の技術力向上、現行の1年制から、3年制への学制の改正に向けたカリキュラムの検討などを目標に活動しています。しかし、赴任と同時に学校が長期休みに入ってしまったことや新型コロナウイルスの影響でまだ本格的に活動出来ていません。そのため現在は9月から始まる予定の新学期に向けて教室の環境整備などを行なっています。また、家具工場へ見学に行ったり、家具屋さんを訪問して実際にどんな木工製品が作られているのか調査したりとルワンダの木工について情報収集をしつつ、日々フイエの街を散策しています。どうやったら木工を通してものづくりの面白さや楽しさを伝えることが出来るのかを日々考えながら、生徒たちに会えるのを心待ちにしています。

任地着任の日、同期隊員とともに（筆者は向かって右）



02

ドミニカ共和国より

こんにちは。ドミニカ共和国に赴任しております、コミュニティ開発の谷中一路と申します。ドミニカ共和国は中南米のカリブ海地域に位置するイスパニョーラ島という島にあり、1つの島にドミニカ共和国とハイチという2つの国が存在しています。ドミニカ共和国は、コロンブスの大航海時代に発見されスペインなどの植民地を経て独立を果たした経緯があり、公用語はスペイン語です。カリブ海で多くの方が耳にしている国では、キューバが周知されていると思いますが、ドミニカ共和国とハイチのあるイスパニョーラ島は、キューバに次ぐカリブ海地域で2番目に大きい島で、カリブ海の熱帯気候も相まって、温暖な気候と自然が豊かなこの国では、世界中から海水浴やバケーションの観光客で年中賑わっています。そのため、この国の基幹産業の1つである観光業が発展し、また熱帯気候の恩恵を受けコーヒーやカカオなどの農業やマンゴーやパイナップルなどのフルーツ栽培もさかんに行われています。また、この国の国民的スポーツは野球であり、広島東洋カープもドミニカ共和国でカープアカ

カリブ海のビーチ(コロナ前撮影)





三大国民的行事カーニバル(コロナ前撮影)



大統領官邸にて日系の子どもたちが太鼓を披露



世界遺産ソナコロニアル

デミーを設立し、将来日本でカープのユニフォームを着てプレーに望むドミニカ人選手が日々練習に励んでいます。国民のルーツは植民地時代にサトウキビ生産の労働力としてアフリカから連れてこられたアフリカ系や欧州から移民した人たちから構成されているため、一見すると多様性に富んでいる一面もあります。ドミニカ人の気質は陽気で時間に縛られない、何か問題が起こっても寛容的且つ柔軟に対応する方が多く、また家族や親戚、友人と共有する時間を大切に、個人ではなく集団単位での時間を過ごすことを好む印象があります。その一方で、音楽やダンス(ドミニカ発祥の音楽とダンス: バチャータ・メレンゲ)を愛する方も多く国民が義務教育期間で練習するため習得率も高いです。私の配属先は、ドミニカ日系人協会という第二次世界大戦後にドミニカ共和国へ移住された日本人(日系の方)が設立された組織で、日本語学校や運動会、盆踊り、露店イベントなど様々なイベントを運営しています。要請はそれらの活動の運営補佐的な役割ですが、コミュニティ開発らしく模索しながら手探りで何でもやっています。今年の7月には、ドミニカ共和国の大統領官邸にて日系移住 65 周年記念式典が催され、式典の中で日系の子供達が太鼓を披露する機会をいただきました。太鼓は推し進めてきた活動の 1 つなので、この機会に太鼓に興味を持つ方が増えればなと思っています。コロナの現状に関しましては、ドミニカ共和国だけでなく日本もコロナ感染者数が増加の一途を辿るなど予断を許さない状況だと思います。ドミニカ共和国も日本と同様、医療機関が逼迫するなどあり、夜間外出禁止令(感染者数に応じて時間帯の変動あり。例: 午後 18 時～翌朝 5 時など。)が発令するなど対応していました。ドミニカ共和国政府はCMや看板などの広告も活用し、国民のワクチン接種を積極的に推奨しており、ワクチン接種に政府が非常に尽力している

印象です。その成果もあってか、国民の半数以上はワクチン接種が終了し、8 月には首都の外出禁止令が 1 年半ぶりに解かれました。ドミニカ共和国では、日本でいう第 3 次産業である観光業も国家財政や多くの雇用創出を支えているため、国民のワクチン接種率向上とコロナプロトコルを早急に構築し、いち早く外国人観光客の誘致を実現する目的もあると思います。現在はコロナ禍という現状を踏まえ、出張やイベントの開催も難しく、活動を進める上で難儀することも多々ありますが、ドミニカ人のように物事を柔軟に捉え進めていく気質に影響されてか、焦燥感などが日本にいたときより減った気がします。任期も残り僅かになってきましたので、思い残すことのないよう引き続き頑張りたいと思います。

03 「青年海外協力隊を原点として」～外国人労働者支援活動に取り組む～

広島文教大学 人間科学部准教授 岩下康子

1997年1次隊 マーシャル諸島共和国派遣 小学校教諭

コロナウイルス感染症によって、私たちの日常は激変した。あふれだした数多の課題はすべてこれまでのツケを負わされたようなものばかりだが、手に負えず、結局目の前の些事に追われているのが現状だ。そして、「自分だけは大丈夫」という正常性バイアスに満ちた自己欺瞞行動が日本社会には溢れている。

ワクチン接種が始まりコロナ終息への光が見えてきたはずが、ウイルスの進化によって閉ざされ、このいたちごっこの決着は2022年に持ち越されることが確実となった。緊急事態宣言も今ではむなしく号令だけが鳴り響く状態になっている。

日本語教室で



日本の悪い部分が丸裸にされたようなこの2年。日本だけに生じる出来事ではないが、今一度日本を客観視する、これが青年海外協力隊員であった私たちにできる大きな使命ではないだろうか。海外に住む経験で得られる最大の武器の一つは、自分のいた場所を外から客観視することにある。その貴重な経験を協力隊によって与えられた。だからこそ、元協力隊員として恩返しできることは、今日本がやっているダサいことを是正していくことなのではないかと考えている。

そんな私が取り組んでいるのが、日本の外国人労働者問題だ。協力隊員は表向きボランティアではあるが現地並みの給料をもらう外国人労働者だ。これが私の活動の原点にある。派遣国によって協力隊員の扱いは多種多様であろうが、基本的には国に守られる存在でもあった。今、日本社会には送り出し国にも、受け入れ国にも守られない外国人がうじゃうじゃいる。制度設計や受け入れは国が始めたのに、入国後は民間任せとなっている日系労働者、技能実習生、留学生たちが、日本のエッセンシャルワークを支えている。便利な世の中を謳歌したい日本人の欲望を満たすために、せっせと途上国から人を連れてきているのに、それを見ようともしない人々の生活様式がこの

そんな私が取り組んでいるのが、日本の外国人労働者問題だ。協力隊員は表向きボランティアではあるが現地並みの給料をもらう外国人労働者だ。これが私の活動の原点にある。派遣国によって協力隊員の扱いは多種多様であろうが、基本的には国に守られる存在でもあった。今、日本社会には送り出し国にも、受け入れ国にも守られない外国人がうじゃうじゃいる。制度設計や受け入れは国が始めたのに、入国後は民間任せとなっている日系労働者、技能実習生、留学生たちが、日本のエッセンシャルワークを支えている。便利な世の中を謳歌したい日本人の欲望を満たすために、せっせと途上国から人を連れてきているのに、それを見ようともしない人々の生活様式がこの

日本語教室お花見



技能実習生と留学生・大学生の交流会



社会には確立されてしまった。来日して満足している方も大勢いるが、声なき声や細い牙を胸に秘めている外国人は少なからずいることを知るべきだろう。

私の本業は大学教員であるが、休日に日本語教室を開催し（現在コロナで閉室）、地域の外国人と関る一方、労働組合のメンバーとして、特に外国人労働者の相談に携わっている。日本語教室では、僻地に送り込まれた技能実習生たちが、日本語という壁から取り残されていることを知った。この活動には元隊員が多く関わっていることも存じており、非常に勇気づけられている。

労働相談では「江田島事件」が風化してしまったかのような事例もあり、情けなく思うこともある。暴力や暴言を浴びて、労働に何の意味も見いだせない技能実習生、稼げると聞いて来たのに手取りは期待した半分だったなんて相談に胸が痛む。同じ姿勢での仕事を強いられ慢性の腰痛に悩む日系労働者、パワハラも日常的にあり、精神的な病に悩む人も多い。アルバイトを掛け持ちして大学や専門学校に通いながらも高度人材としての就職を果たせず、帰国する留学生たち。夢や希望をもって来日したはずなのに、絶望と遺恨を背負って帰国する人たちを次々に輩出している。

外国人の相談に当たる行政窓口はあるが、正常に機能しているとは言えず、支援の多くは民間に頼っているのが現状だ。受け入れ態勢が整わない間に、むやみに人を受け入れたことが、コロナ禍に露呈して様々な混乱を生んだ。私には、目の前にいる人に寄り添うことしかできない。でも、同じ志を持つ人が多数いれば、多くの人に寄り添って、問題を解決できると確信している。先進国という看板は日本にはもういない。せめて、人権尊重の国であると世界に言わしめたい、そんな思いで今日も相談に当たっている。



訓練所～任国派遣前の想いを形にするためにアンケートを取りました。隊員のみなさん！派遣された時の思いを忘れない様に

アンケート内容

①名前 ②隊次／派遣国 ③職種 ④応募したきっかけ ⑤訓練所での辛かった思い出 ⑥訓練所での楽しかった思い出 ⑦2年間の活動中に挑戦したいことは？ ⑧出国を前に控えた今の心境は？ ⑨これから2年間の活動に向けての意気込みを一言



①岡 享 ②2019-3/ルワンダ ③木工
④友人が協力隊OBで、体験談棟を聞いて興味を持ちました。⑤語学訓練です。言語は英語でしたが、毎日パニックになっていました。⑥就寝前の雑談 ⑦ルワンダ料理、農業 ⑧何度も延期になっていたの、ついて行けるのか。と言う心境でした。⑨色々な人と関わりあって、日々を楽しみながら活動していきます！



①中下 杏美 ②2021-1/ジンバブエ
③体育 ④小学校の頃に見た、社会の資料の写真がきっかけです。すごく不思議なことですが、それその小さな写真がすごくキラキラして見えました。夢は変わることなく、体育の教員になった後の自分の力を試したい、広い視野を持ちたいと思い応募を決めました。⑤コロナ禍での生活制限との戦いです。外出禁止や用具の使用禁止、行動制限など。⑥日々楽しかったです！特に同期と過ごす時間は楽しかったです。談話室での会話や休日の自主講座、ピクニックなど、全てが思い出です。⑦要請内容に沿った活動はもちろんですが、ジンバブエでたくさんの友達を作ります!! ⑧楽しみ9割、不安1地割です！とにかくコロナが落ち着いて欲しいです。⑨コロナ禍だから出来ること、1年待った私にできることを一生懸命頑張ります!!



①福山 傑 ②2021-2/ヨルダン ③水泳
④夢が「世界平和」で、小さい頃行って来た水泳や、専門的なことを学んできたスポーツを生かせないかと考え、知識や技術がない途上国の人達にそれらを伝えれば、もの凄い記録や結果が出るのではないかと、ダイヤの原石を磨けるのではないかと考えました。現在のスポーツ世界1位は1位では無いと思っていて、みんな平等でそれぞれにチャンスがあるので、偏った世界をひとつにしたいと思っています。それがスポーツから世界平和に繋がると考えたからです。⑤コロナ禍ということで元々の同期の人数が少なく、私の学んだアラビア語に関しては一人で授業を受け、学ばなければならなかったのが辛かった。けれど、先生とマンツーマンで、自分のペースで進めることが出来たのでより自分の身になったと感じている。⑥コロナ禍で思うように交流を深めることができない中、隊員同士の交流を深め思い出に残る、そして自分を表現するなど任地で役に立つことは出来ないかと考え、自主講座で文化祭を主催した。コロナ対策など徹底し、その中で出来ることを見つけるのは、コロナ前より大変だと思ったが、今できることを臨機応変に考えることが出来たので間違いなく力になった。⑦広島県出身ということもあり、また夢が世界平和ということもあり、一緒に平和について考えられるような事に挑戦したいと思っている。スポーツ隊員として、スポーツと平和を掛け合わせて伝えていきたい。⑧不安は全くなく、ワクワクと楽しみで、早く任地で活動したい思いがいっぱいだ。どのように自分を表現して、理解してもらえ、より良い活動に出来るか考えられるのが嬉しい。⑨スポーツ隊員として目の前の結果も大事にして行きたいが、世界の「いつか」の力にもなりたいたいので長い目でみて小さくてもいいので残せるものや、私から伝わるものがあるといいなと考えている。昔からスポーツばかりやって来て、人より勉強は出来ないが、やる気と元気と笑顔で、私らしく活動したいと考えている。



①横山 穂佳 ②2021-2/ウガンダ ③理科教育
 ④フィリピンに留学していた時、格差の実態を目の
 当たりにし、そのような世界で生きる子どもたちが何を思い学
 校に行き、学んでいるのか知りたいと思ったから。 ⑤最初う
 まく周りの人たちとなじめなかったこと ⑥山に登って、川に
 入って、流れ星と花火と蛍をみたこと ⑦鶏をさばくこと、現
 地の人とたくさんおしゃべりすること ⑧派遣される実感が
 ないのが正直な気持ち、今目の前にあることを全力で頑張りたい
 ⑨現地の方々とよい関係を築く



①濱本 義実 ②2021-2/パラグアイ
 ③コミュニティ開発 ④協力隊に参加した
 友人から話を聞いたことです。 ⑤とくに無いです。
 ⑥同期隊員と長野県の駒ヶ岳に登ったことです。 ⑦
 美味しいパラグアイ風お好み焼きを作りたいです。
 ⑧ドキドキワクワクです。 ⑨自分に出来ることをで
 きる限りしてきたいと思います。

05

OB 会イベント実施状況・予定



会報誌発送作業 (2020.12.12)

会報誌の発送作業を行いました。



広島県 OB 会総会 (2021.02.13)

今年度は、OB 会総会のみ行いました。
 多くの OB・OG 隊員の参加を期待いたします。

今後の予定

次項に記載の通り、総会は 2 月 5 日に実施予定です。現時点で総会以外の予定は未定ですが、希望する人へのワクチン接種 2 回目が終わりと、感染者数も減っていることから、今後少しずつ様子を見ながら何か出来ればと思っています。(こんなイベントがしたい等ある方は竹内まで)

イベント等、予定が決まり次第各広島県 OB 会の一斉メール等にて連絡いたします。みなさまくれぐれもウイルスに感染しない様に心がけ、また元気にお会いしましょう。

会報誌担当 5 年目の 61 年度 2 次隊吉池俊二です。今年もコロナウイルスの感染拡大でほぼ行事・活動の行えない 1 年でした。ただ 新隊員の方々が、任地に向けて派遣が再開されております。私たち OB にとっても嬉しい事です。ただ コロナの感染は、まだ完全に安全な状態とは言えない今 隊員の皆さんのご健康を ご無事での帰国をお待ちしております。広島県 OB 会の皆様 なかなかお会いできない日々が続いております。来年こそは、少しずつ活動のできることを願っております。又 OB 会に 参加されておられない 多くの OB の皆様 ぜひとも参加してください。お待ちしております。若い OB 会の皆さんに 力をいただき日々頑張っております。今年で 63 才になりました。いつまで出来ますか？

総会のお知らせ

例年 2 月に実施している家族連絡会は派遣中の隊員も少ないことから中止の予定です。OB 会総会については、**2 月 5 日 (土) に実施予定**です。緊急事態宣言等出た場合は、オンラインや中止となる場合もあります。その場合は、一斉メール・facebook 等で告知しますので参加いただけたらと思います。

総会スケジュール：2 月 5 日 (土) 広島留学生会館 2 階 **(研修室 3)**

14:00～ 会場準備、14:30～総会、16:30～片付け、17:00 解散予定 (懇親会?)

総会については、会費(2,000 円/年)を払った人のみ議決権を持てるという事になっています。会費を払ってなくても参加は出来ませんが、是非会費を払って参加して頂ければと思います。

JICA・JOCA・協力隊の動向

新型コロナウイルスの影響で、2020 年 3 月以降、海外で活動中の協力隊員は順次一時帰国となり、派遣中の隊員は 0 となった時期がありましたが、2020 年 11 月より順次派遣が再開され、2021 年 9 月末時点で全体で 166 名 (27 カ国) が派遣中であり、広島県からも 2021 年 11 月末時点で 8 名 (派遣国は、ジンバブエ・ドミニカ共和国・ルワンダ・ウガンダ・ジンバブエ・パラグアイ・エジプト・ヨルダン) が派遣中です。一方で訓練を終え派遣待ちだが、派遣時期は調整中となっている方もおり、派遣国により明暗が分かれている状況です。また、訓練についても人数を減らして実施しており、11 月末時点で、2021 年度 4 次隊の訓練中です。(今年度から人数を減らして、隊次は 5 次隊までとなっています) 今後の OB 会入会希望者は派遣期間が数か月、もしくは派遣前訓練のみという方もいるかもしれません。

JOCA については、安芸太田の月ヶ瀬温泉が 2021 年 8 月 1 日でオープン 1 周年を迎えました。温泉に入れて、美味しい蕎麦が食べられます。是非近くにお寄りの際は訪れてみてください。(月ヶ瀬温泉：広島県山県郡安芸太田町加計 3505-2)

広島県 JICA デスクからお知らせ

昨年 7 月より着任した羽立 (はだて) です (2018-1、ガーナ、障害児・者支援)。コロナ禍でも国際協力への関心を絶やさぬよう、皆様と色々な形で繋がりを保ちたいと考えています。

最新情報は右の QR コードから (JICA 広島デスク FACEBOOK ページ)。

広島県 JICA デスク 推進員 羽立 082-242-8879



青年海外協力隊 広島県 OB 会 連絡先

会長：竹内英祐 (20-4 ウガンダ 土木) / 事務局長：上野寛治 (21-2 ドミニカ国 音楽) / 会報誌担当：吉池俊二 (61-2 リベリア 自動車整備)
メールアドレス：info@jocv-hiroshima.sakura.ne.jp (イベントやお問い合わせはこちらへ) / 広島県出身者の任国滞在中の隊員数：8 名